

ウミニナ *Batillaria multiformis* (Lischke)

【選定理由】

本種の属するウミニナ科貝類は県内にホソウミニナ *Batillaria attramentaria* (Sowerby I)、ウミニナ、イボウミニナ *Batillaria zonalis* (Bruguière) の3種があり、ともに内湾の泥干潟の表面に生息している。東京湾や三浦半島ではホソウミニナ以外の2種に著しい減少傾向が認められる(葉山しおさい博物館, 2001; 木村・福田, 2012)。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999; 木村・福田, 2012)。また、生息場所が直接破壊されなくても減少する例が確認されており、注意を要する。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長約 35 mm の塔型で殻は厚く、よく成長した個体の殻口は肥厚し、内唇の滑層は肥厚する。ホソウミニナと近似するが殻が太く、内唇の滑層が肥厚する点などで区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村 (1999) を含めて現在約 20 カ所である。生息場所では群生し、個体数が多い。特に汐川干潟では大きな個体群が残されている。その反面、近年庄内川河口では全く生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、国内では北海道南部から九州に分布する(木村・福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したような泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

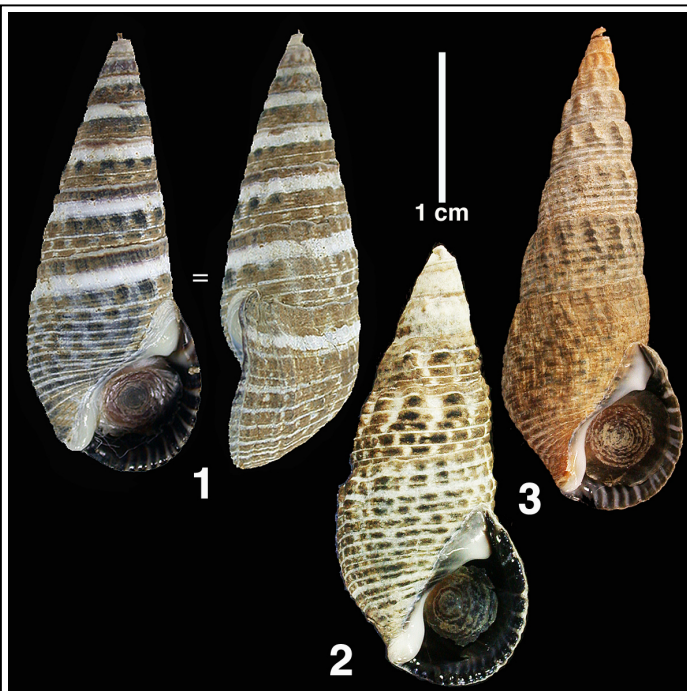
水産資源保護協会(1995)では減少傾向にランクされた。葉山しおさい博物館(2001)では相模湾の個体群が消滅寸前にランクされている。

レッドデータブックなごや2010(木村, 2010)では、本種と正しく同定された愛知県産の標本が図示されていたが、レッドデータブックなごや2015(木村 加筆 川瀬, 2015)では三重県尾鷲市産のホソウミニナが図示されているので、ここに訂正する。

【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.
木村昭一, 2004. ウミニナ, p. 274. in: レッドデータブックなごや2004 動物編, 368pp. 名古屋市環境局.
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. ウミニナ, p. 396. in: レッドデータブックなごや2015 動物編, 503pp. 名古屋市環境局.
木村昭一・福田 宏, 2012. ウミニナ, p. 31. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
水産資源保護協会, 1995. 軟体動物. 日本の希少な野生水産物に関する基礎資料(II), 131pp.

(木村昭一)



1: 幡豆郡鳥羽干潟, 2001年7月15日, 2: 西尾市佐久島, 2017年6月24日, 3: 豊橋市梅田川河口, 2015年7月4日, 木村昭一採集